

緩和ケアとは??

～分野説明～

病気の治癒を目的としたものではなく、苦痛を取り除き、患者さまとご家族にとって、可能な限りその人らしく快適な生活を送れるようケアします。
病気の早い段階から適応され、治療と平行して行われます。

～コンサルテーション例～

| | |
|-------------|--|
| 身体面 | <ul style="list-style-type: none">・痛みへのアセスメントとケアの方法・痛み以外の苦痛症状のアセスメントとケアの方法 (呼吸困難感・全身倦怠感・吐気・食欲不振、腹部膨満感など)・緩和技術を用いながら身体的苦痛の緩和を図る (リンパ浮腫ケア、呼吸理学療法、口腔ケアなど) |
| 精神面 | <ul style="list-style-type: none">・不安、抑うつ、睡眠障害、せん妄、告知後のサポートなど |
| 社会面 | <ul style="list-style-type: none">・経済面、家族・人間関係、身辺整理の問題、療養場所の選択など |
| スピリチュアル面 | <ul style="list-style-type: none">・死への恐怖、苦しみの意味、人生の意味への問いなど |
| 家族・遺族 ケア | <ul style="list-style-type: none">・予期悲嘆、介護疲労、患者・家族の調整、看取りのケア、遺族ケアとしてのエンゼルケア、悲嘆感情への対応、遺族ケアの考え方など |
| 倫理的問題 | <ul style="list-style-type: none">・終末期における輸液の考え方、鎮静（セデーション）のプロセス・意思決定支援、患者・家族の意見の相違への対応、延命治療に対する考え方など |

このほかニーズに合わせた研修会なども可能です。

現場でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

緩和ケア認定看護師 役割と活動内容

● 役割

- 実践**
- ・徹底した苦痛症状の緩和(疼痛及び疾患に伴うその他の苦痛症状の緩和苦痛の緩和)及び療養の場に応じた患者・家族のQOLの向上を図る
 - ・特化技術であるリンパ浮腫ケア、肺理学療法、口腔ケアを用いて苦痛緩和を図る
 - ・患者・家族の喪失と悲嘆のケアを行う
- 指導**
- ・患者を全人的に理解し、緩和ケア領域に熟練した技術を用いて、水準の高い看護実践・指導を行う
- 相談**
- ・AMG内のあらゆる職種が抱える緩和ケアを必要とする患者・家族の課題に対し、コンサルテーション機能を遂行する。
 - ・相談者が自ら解決の方向を見出すことができるよう適切な相談・支援を行う

● 活動内容

1) 実践

- ・全人的な側面でのアセスメントに基づいた看護計画を立案し、日常生活の援助を行う。
- ・患者の症状体験を理解し、自己効力感を高めセルフマネジメントが図れるよう援助する。
- ・患者、家族の全人的理解を図る手段として、STAS-Jやペインスケール、各種アセスメントツールを積極的に活用する。
- ・緩和技術(リンパ浮腫ケア指導、リンパドレナージュ、肺理学療法、口腔ケア等)を用いながら、身体的苦痛の緩和を図る。
- ・緩和ケアを受ける患者・家族の人権を擁護するために、適切な倫理的判断を行う。
- ・ICを十分に図り患者の意思が尊重されること、アドバンス・ディレクティブを最大限考慮しチームで倫理的な判断ができるよう実践・指導を行う。
- ・カウンセリング技術やライフレビュー、側にいることを通して患者・家族の精神的ケア・スピリチュアルケアを行う。
- ・家族が予期悲嘆の過程を順調に促進できるよう、家族アセスメントと家族ケアを行う。
- ・患者が尊厳のある最期を迎え、家族が望む看取りができるよう、臨死期のケアを行い、遺族ケアとしてのエンゼルケアを行う。
- ・療養場所に応じて、患者・家族がシームレスな緩和ケアを受けることが出来るように、関連する施設・他職種との調整を行い、看護実践者としてリーダーシップを発揮する。
- ・他職種と連携を図り、全人的な視点でチームアプローチが出来るよう介入する。
- ・遺族が順調に悲嘆のプロセスを歩むことができるよう、又、複雑な悲嘆に対しては早期にアセスメントを行い、適切な遺族ケアを行う。

2) 指導

- ・がん性疼痛及び、症状緩和に関する基本的な使用方法を理解し、患者主体の症状マネジメントを行い、患者の方略を活かし望む症状緩和が図れるよう、実践指導する。
- ・医療用麻薬が安全に管理でき、効果的な投与ができるよう指導する。
- ・エンド・オブ・ライフ期の特徴を理解し適切な看護実践ができるよう指導する。
- ・家族が体験する喪失や悲嘆のプロセスを理解し、家族・遺族ケアの視点からのアセスメントと実践・指導する。
- ・死に逝く過程に敬意を払い、死が訪れ最期まで生きていくことに意味が見出せるようなスピリチュアルケアが行えるよう実践・指導する。
- ・カンファレンス・デスカンファレンスに参加し、患者・家族・遺族のケアの振り返りと今後の方向性が見出せるよう指導する。

3) 相談

- ・対象者を担当する看護師および医療スタッフからの緩和ケアの相談に応じる
- ・相談件数と内容を集計・自己評価・報告できるように相談依頼書を作成する。
- ・対象者の状況に合わせて定期的な訪問を行い、継続的な支援を行う。
- ・対象者が自らのストレスに気づき、対処法を知ることが出来るよう相談に応じる。合わせて、喪失・悲嘆のケアを行う。

